

5月の安全運転のポイント 平成29年5月号

事故を防止するためには、交通場面に潜む危険を的確に予測することが大切です。そこで今回は、運転席から見た交通場面のイラストを基に、危険予測運転について考えてみましょう。

高速道路を走行しています。この場面にはどのような危険があるでしょうか。

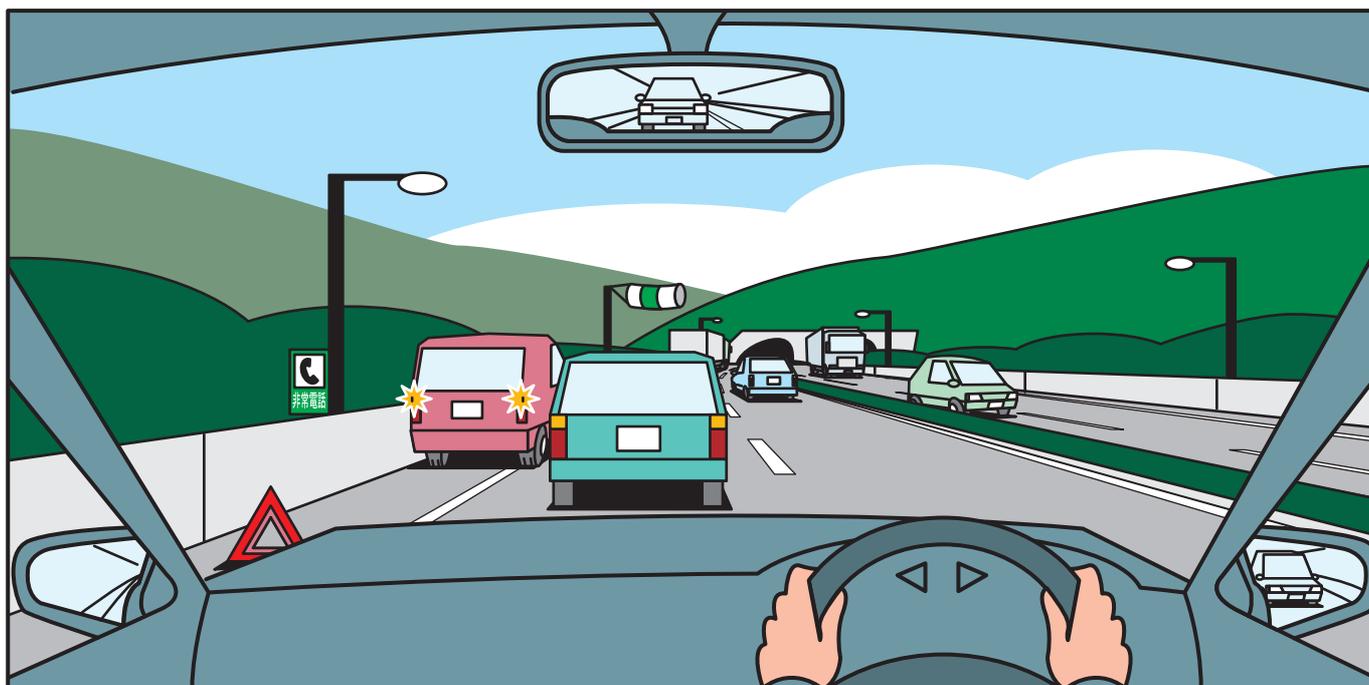


図 1

主な危険の内容

この場面での主な危険をあげてみましょう(図1参照)。

<故障車両が路肩に停止しているA地点>

故障車両の手前で前車が急減速したり急停止する。

右側車線の後続車が接近している。

故障車両の陰から人が車道に出てくる。

<吹き流しが真横にたなびいているB地点>

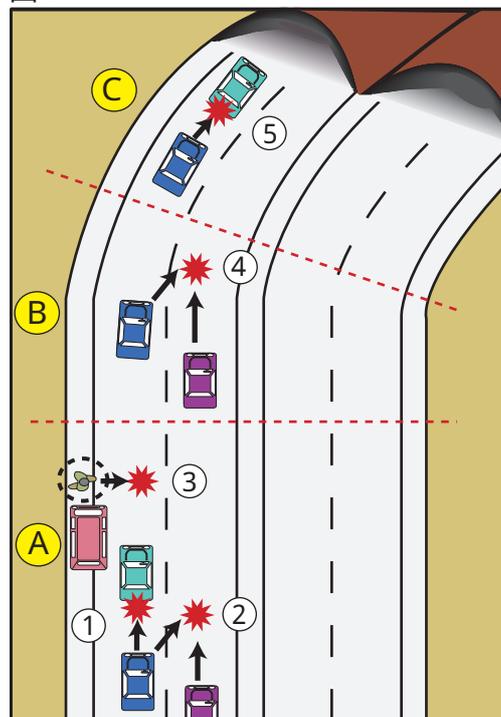
強い横風にハンドルをとられて右に流される。

<トンネルのあるC地点>

トンネルの入口で前車が減速する。

トンネル内が渋滞していて、前車が急減速したり急停止する危険もあります。

上記のうち、故障停止車両の陰にいる人や、トンネル内の渋滞などは目に見えないため予測しにくい危険です。運転時は周囲の状況にしっかり目を配るとともに、「かもしれない」と考えて様々な想定を行うことで、より多くの起こりうる危険を予測した運転を心がけましょう。



高速道路安全走行の基本

高速道路を安全に走行するための基本的な注意点として、次のようなものがあります。

- ・ 出発前に、燃料、タイヤの空気圧や溝の深さ、エンジンオイルの量などを点検する。
- ・ 規制速度を必ず守る。

高速道路では交通状況によって、速度規制が行われることがよくあります。常に時速 100キロ（大型貨物等は時速 80キロ）だと思い込んではいけません。速度標識をよく確認して走行しましょう。

- ・ 車間距離を十分にとる。

路面が乾いた高速道路では、速度の数字を距離に置き換えた数字が安全な車間距離とされています。

- ・ 走行車線を走行し、不要不急の追越しや進路変更はしない。
- ・ 急ハンドルや急ブレーキは避ける。
- ・ ドライバーはもちろん、後部座席を含めた同乗者全員が必ずシートベルトを着用する。
- ・ 行楽期は大渋滞に巻き込まれるおそれがあるので、十分な飲料水や携帯トイレを用意しておく。
- ・ 少なくとも2時間に1回の休憩をとる。

故障停止車両などがあるときの注意点

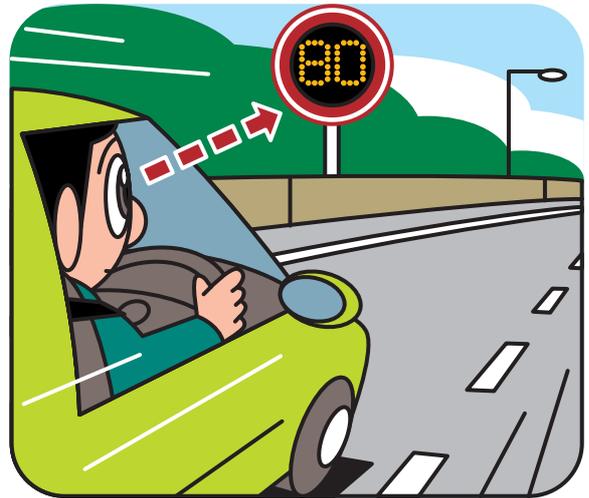
前方に故障停止車両や停留所に停車している高速バスがあるときは、その周辺から歩行者が本線車道に出てくる可能性があります。「高速道路には歩行者はいない」という思い込みはせず十分注意し、できればその手前で追越車線へ進路変更しておくのがよいでしょう。進路変更する場合は、必ず後続車の有無を確認しましょう。

風が強いときの注意点

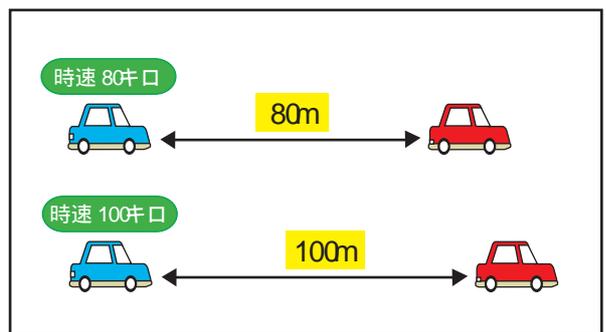
強風時には、ハンドルをとられて車が流されることがありますから、吹き流しが真横にたなびいている場所を走行するときは、速度を落とすと同時にハンドルをしっかり握り、車が多少流されてもあわてずに、車体を車線内に保つようにしましょう。

トンネル接近時の注意点

交通の教則には、「高速でトンネルに入ると、視力が急激に低下するので、あらかじめ手前で速度を落とす」ことが記されています。トンネル接近時は速度を落とすと共に、前車の減速に備えて十分な車間距離をとっておきましょう。なお、急な減速は追突される危険がありますから、ブレーキを数回に分けて踏むなどして後続車に減速の意図を知らせるようにしましょう。



【路面が乾いた高速道路での安全な車間距離の目安】



「ご相談・お申込先」